

後期高齢者における血栓閉塞型 StanfordA 型急性大動脈解離の治療成績の検討

研究の対象

当院で 2011 年 10 月から 2020 年 12 月までに上記診断にて入院加療を行った 75 歳以上の方

研究目的

StanfordA 型急性大動脈解離は致死的な疾患で緊急手術の適応である一方で、早期血栓閉塞型の一部では保存加療で経過観察可能な場合もあります。高齢の方に対する手術は身体への負担や術後に長期間ベッド上で過ごすことによる筋力の低下、また、予期せぬ合併症により術後の日常生活動作を著しく損なう可能性が危惧されるため、その治療法の選択に関しては十分な検討が必要です。今回、同疾患に罹患し当院で手術加療を選択された方と保存加療を選択された方について、その成績について検討することを目的とし本研究を実施します。

方法・研究に用いる情報の種類

年齢、治療内容、術後の経過等の情報、保存加療を行われた方の大動脈関連疾患の有無、入院加療後の生存期間および死因を診療記録および患者家族への電話にて収集します。

お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

済生会熊本病院 心臓血管外科

研究責任者：心臓血管外科 中前 亨介

（住所） 熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号

（電話） 096-351-8000 （病院代表）

以上